

令和6年度 留萌市議会公共施設整備調査研究会 行政視察研修報告書



期日：令和6年10月14日(月)～16日(水)

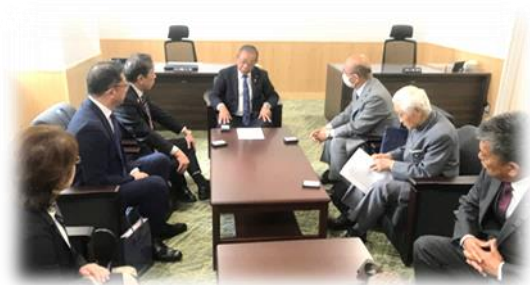
場所：北海道（根室市・富良野市）

I 北海道根室市

1 視察日時

令和6年10月15日(火)

午後1時00分～午後4時40分



2 視察場所

- ・ 根室市役所新庁舎
- ・ 根室市水産研究所

3 視察項目及び目的

(1) 根室市役所新庁舎について

沿岸部において令和6年5月より開庁した根室市役所新庁舎について、担当者の意見や市民との対応状況や建設のコンセプト、将来推計の方法などを学とともに、庁舎機能や設備における長所・短所等を調査し、今後の建設計画の参考にすることを目的に視察する。



(2) 根室市水産研究所について

水産蓄養施設の改築を想定している本市として、先進的に実施している根室市水産研究所の研究内容や成果に基づく施設構造等を調査し、今後の検討資料にすることを目的に視察する。



4 根室市役所新庁舎について

(1) 説 明 員

根室市総務部総務課長兼庁舎整備推進課長 新 宏之 氏

根室市総務部庁舎整備推進課庁舎整備推進主査 富樫亮介 氏

(2) 経 過

時 期	概 要
平成21年	耐震診断の結果、震度 6 強程度の地震で倒壊の可能性があることが判明
平成28年11月	「庁舎耐震化等庁内検討会議」を設置し、全庁的な検討を開始
平成30年10月	市民アンケート調査を実施。約 7 割が庁舎整備手法を「建替え」回答
令和元年 7 月	庁舎整備をテーマとした「市民モニター会議」を開催。庁舎建替えを前提に必要な機能や建設場所について議論
8 月	市民アンケート、市民モニター会議、議会議論等を踏まえ、庁内検討会議、政策会議を経て庁舎を災害対応拠点施設として建替え、耐震化を図ることを決定
令和 2 年 3 月	「根室市役所庁舎建替基本構想」が完成
11 月	「根室市役所庁舎建設基本計画」が完成
令和 3 年 2 月	「根室市役所庁舎建設基本設計」が完成
令和 4 年 3 月	「根室市役所庁舎建設実施設計」が完成
6 月	新庁舎等整備工事に着手
令和 6 年 3 月	新庁舎等整備工事が竣工

(3) 事業概要

① 建築概要

基本理念を「世代を超えて 安全と安心を未来へ」とし、子どもからお年寄りまで、安全で安心して暮らせるまちの拠り所として、これまでの歴史的な背景や市民憲章に掲げる誓いを継承しつつ、将来にわたり根室の災害対応及び行政活動に係る拠点施設となる庁舎を目指し、元々、商業地域に建設されていた旧庁舎の駐車場を活用し、建設されている。

また、旧庁舎は、令和 6 年度から解体となるが、地階を残して解体し、地上部は駐車場として利用するとともに、地階部は災害用備蓄品等を保管する倉庫等に改修し、新庁舎と接続することで一体的に利用する予定となっている。

主要用途	市役所庁舎
敷地面積	11,950.98 m ²
延床面積	6,975.94 m ²

構 造	鉄筋コンクリート造及びプレストレストコンクリート造
階 数	地下1階、地上4階
昇 降 機	エレベーター 20人乗り 13人乗り 各1台
付帯施設	・来庁者用駐車場 約100台（令和8年度完成予定） ・公用車用駐車場 約60台（令和8年度完成予定） ・職員用駐車場 約60台（令和8年度完成予定） ・駐輪場 約20台

② 事業概要

償還時に有利な起債である公共施設等適正管理推進事業債を活用するためには、「令和2年度までに実施設計に着手していること」が条件であったことから、実施設計は、基本計画・基本設計の委託事業者と随意契約する前提で、基本計画・基本設計の業務委託をプロポーザル方式で選定されている。

また、緊急防災・減災事業債などの有利な起債も活用するとともに、し、国や北海道の補助金等も活用し、自治体負担を最小限としている。

総工事費は、資材等の物価高騰前であったことから、比較的安価で建設されている。

I 委託業務		373,141 千円
基本計画・基本設計業務委託	42,350 千円	(対象外)
市有地測量業務委託	7,205 千円	
地耐力調査業務委託	6,160 千円	
実施設計等業務委託	121,000 千円	
工事監理業務委託	73,161 千円	
ネットワーク構築業務委託	45,948 千円	
樹木整備業務委託	1,030 千円	(対象外)
移転支援等業務委託	14,100 千円	(対象外)
アスベスト調査工事監理業務委託	5,236 千円	(対象外)
個別システム移設業務委託	19,710 千円	(対象外)
プリントサーバー構築業務委託	6,380 千円	(対象外)
新庁舎移転業務委託	18,832 千円	(対象外)
デジタルサイネージシステム構築業務委託	2,129 千円	(対象外)
エントランスホール壁面装飾業務委託	9,900 千円	(対象外)
II 庁舎等整備工事		5,474,713 千円
外構・植栽等準備工事	24,310 千円	
外書庫等解体工事	22,220 千円	
新庁舎建設 建築主体工事	2,442,000 千円	
新庁舎建設 機械設備工事	1,073,600 千円	
新庁舎建設 電気設備工事	581,350 千円	
防災無線等工事	36,850 千円	

道防災移設工事	12,815 千円	
車庫棟新設整備工事	167,728 千円	
車庫棟解体工事	8,701 千円	
旧庁舎解体改修工事	946,000 千円	
外構工事（その１）（その２）	130,669 千円	
防災監視カメラシステム整備工事	28,195 千円	
駐車区画線抹消工事	275 千円	（対象外）
Ⅲ その他		258,389 千円
報酬（開庁式記念品等）	162 千円	（対象外）
旅費（先進地視察等）	3,601 千円	（対象外）
需用費（庁用物品等）	7,472 千円	（対象外）
役務費（各種手数料）	6,278 千円	（対象外）
事務機器借上料	3,255 千円	（対象外）
庁用備品購入費	237,248 千円	（対象外）
その他	373 千円	（対象外）
事業費合計（Ⅰ＋Ⅱ＋Ⅲ）		6,106,243 千円
財源合計		6,106,243 千円
社会資本整備総合交付金（国）	338,700 千円	
道津波避難施設等整備特別対策事業費補助金	9,500 千円	
公共施設等適正管理推進事業債	4,024,700 千円	
一般補助債	16,700 千円	
緊急防災・減災事業債	743,700 千円	
公共事業等債	134,800 千円	
防災対策基金繰入金	551,544 千円	
寄付金繰入金	50,450 千円	
一般財源	236,149 千円	

③ 各フロアの機能

1) 地下１階

953.88 ㎡の地下１階には、機械室や電気室、非常用発電機室などの庁舎管理機能を集中させている。

また、高低差を利用し、地下からも職員が出入りできるようになっており、１階職員用の更衣室のほか、セキュリティ対策として警備員室も配置されている。

更に、旧庁舎の地階部が災害用倉庫として改修された際には、渡り廊下で連結される予定となっている。

2) 地上１階

1,569.90 ㎡の１階には、駐車場から利用しやすい正面玄関、バス停から利用しやすい南玄関、大型車両からアクセスしやすい北玄関を配置している。

正面玄関から入ったエントランスホールには、大型スクリーンが設置

され、可動式の壁でギャラリーゾーンを創ることも可能となっており、西側の壁面には、カウンターテーブルと共に市民が自由に使用出来る電気とUSBのコンセントが設置され、市役所に用事が無くても市民が集える空間が用意されている。



執務スペースには、来庁者の利便性を考慮し、福祉・税務・会計などの窓口部門が配置されているとともに、子育て世代が安心して利用できるようにキッズコーナーや授乳室も配置されているとともに、来庁者が利用しやすいよう、北玄関付近に売店、南玄関付近に指定金融機関の派出所とATMが設置されている。



職員の執務スペースは、同階に書庫や給湯室が配置されていることから、デスク周辺に余計な書庫や個人用ゴミ箱を置かず、必要最小限の空間となっている。また、地階部に個人の更衣室が用意されており、上履きに履き替えてから入るため、美観が維持されているとともに、外部業者等は執務スペースに入ることができなくなっており、個人情報の漏洩防止にも配慮されている。

3) 地上2階

1,388.95 m²の2階は、行政事務機能としているほか、3分割可能な大会議室をエレベーターの近くに配置し、来庁者の利用しやすいように工

夫している。

職員の執務スペースは、1階と同様となっている。

4) 地上3階

1,504.13 m²の3階も、行政事務機能としているほか、災害時に対策本部を設置できる庁議室のほか、防災機器室や仮眠室など災害時に対応できる機能をまとめている。

職員の執務スペースは、1階と同様となっている。



5) 地上4階

1,508.38 m²の4階は、議会機能として、議場、議員控室や委員会室が配置されているほか、市民交流機能として、職員のみならず市民も利用できる食堂、テーブルセットや自動販売機のほか、1階のエントランスと同様に市民が自由に使用できる電気とUSBのコンセントがカウンターテーブルに設置されており、市民が気軽に訪れることができる工夫がされている。



議場は、議会以外での利用を考慮し、フラットな床形状としているものの、北海道産木材でオーダーされた議場内のテーブルは非常に重く、移動が困難であるのと、執行部側のマイクが有線であることから、議会以外の利用には、難しさを感じられている。



議員控室は、可動式の壁で仕切られており、会派の人数に応じて変形できるようになっている。

開庁時間以外に、議場があるフロアに行くためには、セキュリティカードが必要となっており、入退室の時間が記録されるように管理されている。



6) PH階

50.70 m²のPH階には、北方領土や知床連山を望むことができる展望スペースが配置されているが、通常時は管理上、閉鎖されている。

また、屋上には、空調室外機やアンテナなどの機器が配置されているほか、自然エネルギーを活用するため太陽光パネルも設置されている。

7) その他

a) 木材の使用

木材の使用料は、全体で18.63 m³、内16.83 m³が道産トドマツ。主な使用箇所は、窓サッシの額縁、壁ルーバー、カウンター天板、特別職執務室・正副議長室・議場の壁練付け合板等。北海道が実施している道産木材を用いた建築物の登録制度「HOKKAIDO WOOD BUILDING」の基準を満たしており、令和6年12月1日に登録される予定である。

b) 庁舎規模

庁舎規模は、開庁予定の令和6年時点の想定値とし、人口推計は国立社会保障・人口問題研究所の推計人口を基にコーホート要因法を用いて独自に推計した2万3千人、職員数は299人を想定している。

基本構想策定時における庁舎面積は、「人口規模の似ている自治体との比較による算定」「総務省の地方債同意等基準による算定」「国土交通省の新営一般庁舎面積算定基準による算定」の数値を参考に、7,000～8,000 m²としている。

c) 食堂や売店の事業者

食堂や売店は、職員の福利厚生施設として位置付けているが、職員以外の来庁者も利用可能。新庁舎への移転を機にプロポーザル方式による公募を行い、食堂は2社、売店は1社の応募があり、結果として食堂・売店ともに旧庁舎と同様の事業者が運営している。

d) 新庁舎のDX

新庁舎整備を機に行ったDX（デジタルトランスフォーメーション：デジタル変革）の取組としては、「LGWAN（行政専用ネットワーク）の無線化」「ダイナミックVLAN（元々のネットワークを論理的に区切ったりまとめたりするネットワーク）」「書かない窓口」「窓口案内表示システム」の導入などがある。

e) 非常用発電機

ブラックアウトなどの停電時には、庁舎の地下室に整備した非常用発電機が自動で稼働し、一定程度の電力は継続して供給されるため、市役所入り口付近の照明の点灯により、支障なく災害拠点施設である市役所庁舎へ誘導できると想定されている。今後、地域防災計画に一時避難場所として位置付けられる予定である。

(4) 効 果

令和6年5月から使用し始めたばかりで、防災拠点としての活用はないが市民の評判も良く、来庁者も増加している模様である。

また、職員の評判も良く、執務環境が良くなることに伴う若年職員の離職減少に期待されていた。

(5) 感 想

庁舎建設経費については、物価高騰前であったり、ふるさと納税額に大きな違いがあったり、有利な起債を活用できていたり、直接参考とすることは

できないが、付帯経費など、見えない部分が知ることができたこと、更には市民が利用しやすい環境づくりに様々な工夫がなされていることを知ることができ、非常に参考となった。

職員の福利厚生施設でもある食堂や売店に関しては、その必要性や来庁者の利便性、新施設周辺等地元事業者との関係性を考慮した配置について、検討が必要であると感じた。

また、根室市においても、委員会室を除いた議会側のフロア的设计については議会側に委ねられており、当市においても先進地を視察し、市民に理解される提案に向け、調査と協議を図っておく必要性を感じた。



出退勤セキュリティ管理



テレキューブ(ネット会議個人用)

5 根室市水産研究所について

(1) 説 明 員

根室市水産研究所所長 工藤良二 氏

(2) 設置目的

根室市水産研究所は、根室市の基幹産業である水産業について、水産物の安定的生産・供給体制の確立を目指し、特産物であるハナサキガニやオオノガイ、ハタハタなど根室沿岸域の基礎的研究を行い、成果を基に、地域における種苗生産技術の確立を図



り、永続的に安定した沿岸漁業の振興寄与することを目的とした施設である。

また、附属施設である根室市栽培漁業研究センターは、「北方四島における共同経済活動」の事業メニューの一つとして掲げられている「海産

物の共同増養殖」に資する中核的施設としての役割を担うとともに、「種苗法流と資源管理の連携」を推進することで、地先水産資源の増大を図り、沿岸漁業の振興に寄与することを目的とした施設である。

(3) 施設概要

① 根室市水産研究所

竣 工	平成 8 年 9 月 5 日		
敷地面積	5,557.32 m ²		
建物面積	1,099.19 m ²	研 究 所 (鉄筋コンクリート造平屋建	1,041.69 m ²)
		温 室 (鉄骨造ガラス板葺平屋建	30.50 m ²)
		ポンプ室 (鉄筋コンクリート造平屋建	26.00 m ²)
総事業費	687,839 千円〔内建設費 654,226 千円〕		
取水設備	取水管 海中部分－200m (Φ150 mm) 地中部分－150m (Φ200 mm) 真空ポンプ 3.7kW×2 台、取水ポンプ 5.5kW×2 台、 一次ろ過器 8t/h×2 基、貯水槽 7 t×2 基、 送水ポンプ 5.5kW×2 台、二次ろ過器 7 t/h×2 基、 精密ろ過器 2.5t/h×1 基、ブローアerpンプ 11kW×2 台		
水槽設備	・大型丸底水槽 1,000×4 基 ・微細藻類水槽 1000×10 基		

	・ F R P 水槽 2,000ℓ×10 基、2,200ℓ×6 基、1,500ℓ×4 基 ・ アクリル水槽 1,700ℓ×1 基、500ℓ×2 基
特殊空調設備	恒温室 3 室〔実験室、培養室、低温室〕
電気設備	受変電設備、機械動力設備、発電設備、火災報知器設備、電灯設備
研究概要	・ ハナサキガニの種苗生産 ・ ハナサキガニの中間育成 ・ ヤナギダコの生態解明 ・ ホッカリエビの種苗生産及び標識手法の開発

※ 一部、栽培漁業研究センターに移行済

② 根室市栽培漁業研究センター

竣 工	令和 2 年 3 月 24 日	
敷地面積	6,066.54 m ²	
建物面積	1,665.49 m ²	本 建 屋（鉄骨造平屋建 1,627.49 m ² ） ポンプ棟（鉄筋コンクリート造 38.00 m ² ）
総事業費	1,061,925 千円〔内建設費 1,018,600 千円〕 （国補助 700,000 千円、道補助 350,000 千円）	
取水設備	取水管 海中部分－200m（Φ200 mm） 地中部分－200m（Φ200 mm） ・ 海水取水設備 真空ポンプ 1.5kW×2 台、取水ポンプ 15.0kW×2 台（常時 1 台） ・ 一次ろ過設備 一次ろ過器 35.0t/h×2 基（密閉圧力型）、 一次ろ過海水槽 70.0 t×1 基（地下コンクリートピット） ・ 二次ろ過設備 二次ろ過器 17.5t/h×4 基（カートリッジ式 25 μm）、 二次ろ過ポンプ 1.5kW×2 台 1 組、 一次ろ過海水槽 70.0 t×1 基（地下コンクリートピット） ・ 三次ろ過設備 三次ろ過器 14.0t/h×2 基（カートリッジ式 1 μm）	
加温設備	・ 送水ポンプ 11.0kW×2 台 1 組 ・ 熱交換器 379.0kW×1 基（投込みコイル式） ・ 温水海水槽 72.0 m³×1 基（F R P パネル水槽）	
水槽設備	・ F R P 水槽 5,000ℓ×38 基 ・ F R P 断熱水槽 5,000ℓ×4 基 ・ F R P ろ過水槽 3,000ℓ×4 基	

	・ P C 丸型水槽 2,000ℓ×14 基、5000ℓ× 8 基、2000ℓ× 3 基
特殊空調設備	培養室 2 室
電 気 設 備	受変電設備、機械動力設備、非常用発電設備、 火災報知器設備、電灯設備
種 苗 生 産 の 概 要	・ エゾバフンウニ等の種苗生産 ・ ハナサキガニの種苗生産 ・ ホッカイエビの種苗生産

(4) 効 果

① ハナサキガニ

ハナサキガニは、稚ガニへと変態するまでに成長段階において数回の脱皮を繰り返す。水産研究所における稚ガニの生存率は、2008 年頃まで 20% 前後だったが、試行錯誤の結果、2012 年には 60%へ、2016 年には 90%を超えている。

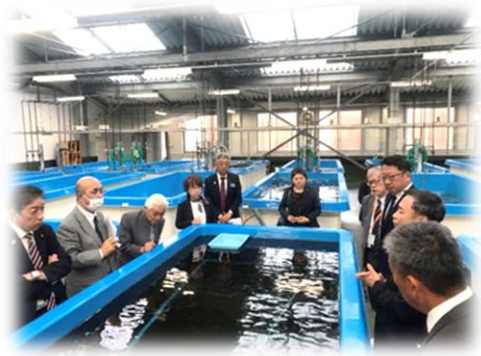
放流効果調査においては、脱皮を繰り返すことから、外部標識による追跡調査は困難であり、現時点における放流効果の把握は再捕尾数の増加からしか判断できていないが、稚ガニまでの育成方法や放流効果の有効な時期についてわかってきており、研究成果とともに将来の資源増加に期待がされている。



② ホッケイエビ

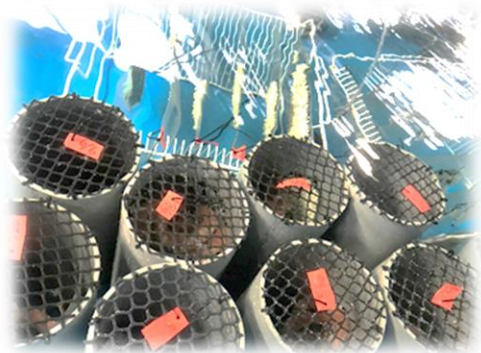
根室半島沿岸海域に生息するホッケイエビは、過去の種苗生産における生存率は約 20～40%と低くバラツキがあったが、初期餌料としての付着珪藻を生産開始前に種苗水槽に繁茂させたことと、飼育水温を高めに設定したことで、成長の個体差を無くした生産を可能としている。また、飼育環境を改善したことで一定の成長促進も確認されたが、共食いによる消耗は生産中も随所に見られたため、今後も生存率の向上を目指した飼育方法を模索していくとともに、資源増大に向けた効果的な放流時期やサイズについても検討がされる予定である。

放流効果調査においては、稚エビ 44,000 尾を適地へ放流しているが、エビも脱皮を繰り返すため、追跡方法については更なる検討が必要な状況である。



③ ヤナギダコ

北海道太平洋側を中心に多く分布するヤナギダコについては、研究所では、産卵礁の内側にアクリル板を丸めて差し込むことで、アクリル板に直接産卵させることを可能としている。また、卵へはエアレーションによって水流を施すことで、親有り状態と同じように孵化させる技術も確立しつつある。本手法は、狭いスペースでも一度に大量の卵を管理することができ、種苗生産の効率性を高める技法として大いに期待されている。



(5) 感 想

行政区域が海に囲まれた根室市では、水産資源の変動が課題であるとともに、期待が持てる産業として安定資源の確保に向けて積極的に取組まれていたが、施設整備においては北方四島との関係による補助金があるとともに、魚介類の餌となる昆布が潤沢に確保できるなどの地域の優位性があり、うらやましく感じられた。

海に面した留萌市においても、その環境を活かして「育てる漁業」に取り組むことにより、気候変動に左右されにくく、漁業者の所得安定と担い手増加に努める必要があると感じた。

今後も、先進地の事例を学び、留萌市に合った水産蓄養施設の設置について、議会としても研究する必要がある。



エゾバフンウニ



タラバガニ

Ⅱ 北海道富良野市

1 視察日時

令和6年10月16日(水)

午後3時00分～午後4時00分

2 視察場所

富良野市複合庁舎



3 視察項目及び目的

(1) 富良野市複合庁舎について

庁舎と文化会館を併設し、令和4年9月に完成した富良野市複合庁舎を視察し、市民との協議経過や完成使用後における長所・短所等について調査し、今後の建設計画の参考にすることを目的に視察する。

4 富良野市複合庁舎

(1) 説明員

富良野市総務部総務課総務係

對馬係長



(2) 経 過

昭和44年建設の旧庁舎と昭和46年建設の旧文化会館の老朽化や耐震性の不足など多くの課題を抱える状況の中、東日本大震災や熊本地震を受けて平成29年に国が時限措置で創設した「市町村役場機能緊急保全事業」を活用し、庁舎と文化会館の複合施設を整備している。

時 期	概 要
平成24年	庁舎検討委員会設置（平成23年3月 東日本大震災を契機）
平成25年	基金創設（財源確保）
平成27年	複合化検討を表明
平成30年5月	基本構想
令和元年5月	基本計画、新庁舎建設検討委員会設置

9月	基本設計
令和2年9月	実施設計
11月	工事開始
令和4年9月	開庁

(3) 事業概要

① 建築概要

新庁舎建設のテーマ「人、まち、自然をつなぎ、次世代の子どもたちへつなぐ庁舎」の実現を目指し、防災・災害対応拠点の強化を念頭に、庁舎と文化会館機能の複合化により、新たな賑わいを創出し、新庁舎がまちづくりを推進する拠点施設となるため、「防災拠点機能を発揮できる災害に強い庁舎」「市民が利用しやすい庁舎」「人や環境にやさしい庁舎」「機能性・効率性・経済性を重視した庁舎」「市民が気軽に訪れて親しみやすい庁舎」とする5つの方針に基づき、建設されている。

建設位置	富良野市弥生町1番1号
敷地面積	12,564.35 m ²
建築面積	3,197.68 m ²
延床面積	8,883.96 m ²
構造	鉄筋コンクリート造、一部鉄骨造、一部鉄骨鉄筋コンクリート造（耐震構造）
階数	地上4階
建物高さ	21.17m
付帯施設	・来庁者用駐車場 132台 ・公用車用駐車場 33台 ・駐輪場 30台

② 事業概要

「市町村役場機能緊急保全事業」を活用するためには、時間的な制限があったことから、事業手法は、技術協力と交渉方式のECI方式とし、VE提案等でコスト削減や工法・調達 of 早期計画で工期短縮を図り、工事費は実施設計後に決定している。

実施設計時の概算事業費と財源見込みは次の表のとおりとなっている。
なお、結果としては、実施設計時よりも少額で完了している。

I 建設工事費	46.5億円
---------	--------

Ⅱ 解体工事費	5.8 億円
Ⅲ 外交工事費	1.2 億円
Ⅳ その他経費	8.8 億円
事業費合計（Ⅰ＋Ⅱ＋Ⅲ＋Ⅳ）	62.3 億円
財源合計	62.3 億円
公共施設等適正管理推進事業債	
市町村役場機能事業	34.0 億円
集約化・複合化事業	15.6 億円
補助金・交付金	5.7 億円
基金	7.0 億円

③ 新庁舎の特徴

1) 施設構造

a) 庁舎立面部

建物形状は、水平ラインでボリュームを抑え、シンプルな長方形としており、外壁は、メンテナンス性や耐久性の高いレンガタイルと特殊熱処理木材パネルを採用している。

b) 庁舎断面部

コミュニケーションボイド（吹抜空間）による採光と開放的な空間、わかりやすい階の構成となっている。また、水害対策として1階床レベル0.5mかさ上げし、1階出入口に防潮板を設置するとともに、1階と2階以上で電気系統を分けて水害リスクを回避している。

c) 環境の配慮

自然採光や自然通風等の自然エネルギーの活用、高断熱・高気密化により、空調の負荷を低減している。また、再生可能エネルギーの井水熱を活用した熱源システム等の効率的な設備システムで環境に配慮した庁舎としている。

2) 大ホールの配置

旧文化会館の後継ホールとして、様々な演目に利用しやすい多目的なホールが配置されている。

ホールには、舞台に隣接して小楽屋、防音性能のあるリハーサル室を備え、客席には子ども連れの方のための親子席が配置されてい



る。

音楽公演用に音響反射板を設け、ホール天井や壁を曲面形状とすることで、音響効果の向上が図られている。

客席は、固定席 510 席と車いす席 6 席の計 516 席、舞台は、間口約 15 m、奥行約 12m、高さ約 8 mとなっている。

3) 市民サービス向上に向けた取組

a) 市民交流スペース「F プラザ」の設置

市民が気軽に訪れて親しみやすい庁舎となるよう、建物中央に市民交流スペース「F プラザ」を配置している。

「F プラザ」では、ミニコンサートを開催、打合せや休憩、学習スペース等の市民の交流・

憩いの場として活用されることを想定しているとともに、災害時には一時避難所として活用される。



b) 総合窓口の新設

住民票や所得証明書等の各種証明書の交付などの簡単な手続や総合案内を行うため「総合窓口」を 1 階に設置している。

「総合窓口」では「書かない窓口」（窓口支援システム）を導入しており、デジタル化を推進している。また、公金支払いにセルフレジを導入し、キャッシュレス化も推進している。



c) ヘソキッズランドの新設

次世代を担う子どもたちを育む環境づくりをめざし、屋内遊具施設「ヘソキッズランド」を設置している。

4) 事務効率化・デジタル化の取組

文書量 30～40%削減をめざし、「文書管理システムの導入」「財務会計システムの改修」「契約管理支援システムの導入」「職員 PC からタブレットへの入替」「押印廃止の推進」を図っている。

また、庁舎のスリム化として、「ユニバーサルレイアウトの導入」「事務用品の一元管理」「備品の一元管理」を図り、袖机、収納庫、不要什器備品を廃棄するとともに、物品庫の整理などを図っている。

これらの取組により、新庁舎の執務スペースについては、旧庁舎と比較し、2割の面積を削減している。

(4) 効 果

市民からは「1階総合窓口での簡易な手続の利便性の良さ」「行政機能の集中化によりワンストップサービスが向上した」などの評価、職員からは「各システムの電子化により書類の量が減り、検索等もしやすくなった」などの評価があり、「書かない窓口」の導入やシステムの統合等により、手続きの時間短縮や紙の削減（現行30%削減）に繋がっている。

一方で、複合施設として市民が利用できる会議室と行政の会議室を共有させることによる効率化を図ったものの、市民からは「会議室のサイズがやや小さくなり、場合によっては不便」との意見、職員からは「会議室が少なく、打合せスペースが足りず予約が混雑する」との意見が多数あり、課題となっている。

(5) 感 想

富良野市複合庁舎は、留萌市が現在想定している「新交流複合施設」と類似している点が多くあることから、視察させてもらったが、「施設面積を抑えるために会議室の効率化を図ったことにより、逆に利用しにくい施設となったことが課題」になっていることを伺い、必要な会議室の面積や数量に関しては、過去の利用頻度を精査する必要があると感じた。

ホールに関しても、「座席を固定式にしたことにより、音響等も含めて良かった」との意見を伺い、「多目的な可動式にした場合、座席下の空間に音が籠ったりして音響が悪くなること」、「利用の都度、稼働させる労力が必要になること」「収納する座席の空間が必要になること」「可動部の下空間が他に利用できず、無駄になること」などが想定されることから、座席の固定式又は可動式については、慎重な検討が必要であると感じた。



議場部分に関しては、富良野市においても議会側に委ねられたようであるが、平面にしたものの「机も重く、収納スペースも無いこと」から、議会以外の利用としては、「机等の配置をそのままにして活用できる農業委員会などに限られている」とのことであり、議場の多目的利用に関しても、慎重な検討が必要であると感じた。



また、議員控室についても、会派室を撤廃し、議員全員のロッカーを備えた控室1室にし、会派などが使用できる相談室を設けているが、議員の事務用品も置くことができない状態であ



り、実務的ではない状況であったことから、議員として活動できる必要最小限の議員控室の在り方についても、検討が必要であると感じた。

職員の福利厚生施設は売店のみで食堂がなく、昼食に関しては、商業地域の立地に配慮し、休憩時間を60分としたなかで、周辺の飲食店に食べに出かけるか自宅に帰って昼食を摂っているとのことであり、当市においてもその検討が必要であると感じた。



※ 視察研修記録

1 視察日程

令和6年10月14日(月・祝)～17日(水) 2泊3日

2 視察行程

① 10月14日(月・祝)

時間	項目	場 所
09:30	集合・出発	留萌市役所
11:10	休憩	道の駅 スタープラザ芦別
13:10	昼食	道の駅 自然体験しむかつぶ
14:50	休憩	道東自動車道 十勝平原SA
17:00	チェックイン	スーパーホテル 釧路天然温泉
18:00	夕食	釧路市内

② 10月15日(火)

時間	項目	場 所
08:40	出発	スーパーホテル 釧路天然温泉
09:50	休憩	道の駅 厚岸グルメパーク
10:20	休憩	コープはまなか
11:40	昼食	食事と喫茶 ニューモンブラン (根室市内)
12:50	庁舎視察	根室市役所
14:50	施設視察	根室市水産研究所
17:50	休憩	道の駅 厚岸グルメパーク
18:50	休憩	スーパーホテル 釧路天然温泉
19:15	夕食	釧路市内

③ 10月16日(水)

時間	項目	場 所
08:00	チェックアウト	スーパーホテル 釧路天然温泉
09:40	休憩	道の駅 おとふけ なつぞらのふる里
13:00	昼食	そば処 小玉家 (富良野市)
13:50	庁舎視察	富良野市役所
16:00	休憩	道の駅 スタープラザ芦別
17:45	帰庁	留萌市役所

4 参 加 者

合計12名(詳細は、別添「参加者名簿」のとおり)

5 交通手段

留萌市ワゴン車2台

6 費用弁償

同行者以外は、議会費で負担（宿泊費、夕食費に充当）

7 事務調整

- ① 視察先の根室市議会、根室市水産研究所、富良野市議会（各１）には、交際費で購入した手土産を持参
- ② 移動に時間を要することにより、十分な視察時間を確保できないことから、質疑に関しては、事前に調整
- ③ 移動時間が長いことから、道の駅を休憩や初日の昼食場所として想定していたが、初日の昼食場所として立ち寄った占冠の道の駅では、食事をとることができず、二日目の休憩場所の厚岸町や根室市の道の駅は、便益施設以外休館となっていたことから今後は事前確認が必要
- ④ 昼食や宿泊は、訪問自治体の経済効果に配慮するところではあるが、宿泊については団体に確保できる施設がないため、釧路市に宿泊

6 視察研修後の感想

公共施設整備調査研究会が視察研修した場所は、留萌市が整備予定であったり、課題としていたりする先進地であったことから、執行部にも同行いただいた。このことにより、情報を共有することができ、今後の協議における議論のイメージが可能となったことから有意義な視察研修となったものである。

また、道中の休憩場所については原則「道の駅」としたことにより、公務ではないものの、参加議員や職員の「道の駅」に対する見識を深めるとともに、当市「道の駅」との比較ができていた。

今後の議会視察においても、可能な限り、執行部の同行を求め、情報の共有を図るとともに、職員の見聞を広め、行政執行を担う職員の育成に寄与することも議会の取組として検討する必要がある。

【留萌市議会公共施設整備調査研究会 行政視察研修 参加者名簿】

区 分	職 名	氏 名	備 考
留萌市議会 公共施設整備調査研究会	座 長	小 野 敏 雄	5 期目 萌芽クラブ
	副座長	村 上 均	7 期目 留萌公明党
	メンバー	横 田 美 樹	2 期目 萌政会
	メンバー	米 倉 靖 夫	3 期目 未来クラブ
	メンバー	野 崎 良 夫	13 期目 無会派
	オブザーバー（議長）	燕 昌 克	4 期目 萌政会
	オブザーバー（副議長）	村 山 ゆかり	6 期目 未来クラブ
随行者（留萌市議会事務局）	事務局長	近 藤 豊	
同行者（留萌市）	総務部長	渡 辺 剛 彦	庁舎整備担当
	総務部財務課長	菊 池 昭 久	財政担当
	都市環境部複合施設推進室長	大 塚 真 也	新交流複合施設整備推進担当
	都市環境部複合施設推進室主査	遠 藤 秀 信	新交流複合施設整備推進担当
合 計		12 名	